

World Cuisine



Embassy of the Republic of Türkiye in Japan

(編集部より) 今号のWorld Cuisineトルコ編では、料理と共に観光についても触れていただきました。

トルコで味わう五感の旅 — Experience Only in Türkiye

トルコは2024年に過去最高となる6200万人超の外国人旅行者を迎え、日本からの訪問者は前年を70%上回る増加を見せた。エーゲ海の澄み切った青色、カッパドキアの奇岩群、イスタンブールの歴史的ドームが織り成すパノラマ、さらに未発見の景観美が訪れる人々を魅了し続けている。

旅の醍醐味はまず食卓にある。「世界三大料理」の一角をなすトルコ料理は、オスマン宮廷の華やかさ、シル



薄切りの肉にトマトソースと溶かしバターをかけた料理で、トルコ料理の最高傑作のひとつといわれる「イスケンデル・ケバブ」



オリーブオイルを使った前菜の「メゼ」



「バクラヴァ」はナッツ入りのパイ生地にシロップをかけたもの

クロードが運んだ香辛料、そして地中海の陽光を浴びたオリーブオイルが重なり合い、深みのある味わいを生み出す。炭火香るシシケバブとイスケンデル・ケバブ、オリーブオイル・ナス・トマトが溶け合うイマーム・バユルドゥ、爽やかなハーブが香るエーゲ海式メゼは潮風とともに味わうと格別で、アナトリアの月明かりとトルコの手厚いおもてなしが加わり忘れ難い体験となる。ピスタチオ豊かなガーズィアンテップ風バクラヴァや、バラとはちみつが香るロクムも欠かせない。職人が巧みに生地を伸ばす伝統アイス「ドンドゥルマ」は、旅の記憶をひときわ甘く彩る。

もうひとつの魅力は「体験型観光」。日の出のカッパドキア上空に無数の熱気球が舞い上がり、谷底に映るハート形の影がロマンティックな空気を漂わせる。イスタン



カッパドキア上空に舞い上がる無数の熱気球



イスタンブールのアヤソフィア・モスク

ブルではブルーモスクとアヤソフィアが向かい合い、ボスボラス海峡を介してアジアとヨーロッパが交錯する。パムッカレの乳白色テラスでは古代ローマの温泉文化が肌で感じられ、中央アナトリアのコンヤをはじめ各地で披露される旋回舞踊セマーは静かな音楽とともに深い精神的余韻を残す。

医療・ウェルネス分野も発展を続ける。国内各地のJCI認定病院では再生医療、歯科インプラント、リハビリテーションなどが提供され、温泉と組み合わせたメディカルツーリズムが健康志向の旅行者に支持されている。さらに、トルコは夏のビーチのみならず、冬季に各地で質の高い雪を擁するスキー場を備え、スポーツや冒険を含む四季折々のアクティビティが楽しめる稀少なデスティネーションだ。

航空ネットワークの拡充で距離はぐっと近づいた。ターキッシュエアラインズは羽田・成田・関西空港からトルコへの直行便を毎日運航している。さらに全日本空輸（ANA）が2025年2月に就航した。日本人観光客にとっては、百年以上にわたる日土友好とホスピタリティが「自宅から遠くても安心できる」感覚をもたらしている。主要観光地では観光警察の巡回や多言語案内が整備され、安全かつ快適な環境が維持されている。

UNESCO世界遺産への関心も高い。トロイでは木馬伝説と古代戦争の痕跡が残る遺構が歴史ロマンを誘う。世界最古級の建造物を擁するギョベクリテペは、高さ5メートルのT字石柱と動物レリーフが1万2000年前の精神世界を今に伝える。カッパドキアのギョレメ国立公



パムッカレ

園では溶岩が刻んだ奇岩と岩窟教会に中世美術が宿り、これら3遺産を巡る「黄金の回廊」ほか、多様なルートが探訪意欲をかき立てる。

エーゲ海沿岸で人気の“ブルークルーズ”は、ターコイズの入り江をヨットで巡り、夕映えの海と空を眺めつつトルコワインを味わう特別な体験となる。トルコワインは近年国際コンクールで受賞を重ね、ワインツーリズムの新星として注目度を高めている。

伝統工芸品も旅を豊かにする。アナトリアのバザールには色鮮やかな絨毯やキリム、銅細工が並び、文様に宿る遊牧の歴史が静かに語りかける。UNESCO無形文化遺産のエブル、イズニック由来の伝統タイル（チニ）、金属工芸は体験工房で気軽に触れられ、自作の一品を持ち帰ることもできる。

東黒海沿岸の茶畑で摘み取られた茶葉は、国内各地の歴史的コーヒーハウスで供される熱した砂で淹れるトルココーヒーと並び、喫茶文化を彩る。銅製ジェズヴェで淹れられたコーヒーを飲んだ後に行うトルココーヒー占いは、小さな物語の旅に添える。

こうしてトルコは、見る・味わう・触れる・聞く・香るの五感を満たす旅を提供する。ホシュゲルディニス（ようこそ）の言葉と温かな微笑みがあふれるこの国では、忘れがたい思い出が確かに刻まれる。

